

令和５年度小牧山歴史館等運営委員会議事録

1 会議の名称

令和５年度小牧山歴史館等運営委員会

2 開催日時

令和５年１０月２５日（水）午前１０時００分から午前１１時２０分

3 開催場所

小牧市役所東庁舎４階 本会議用控室

4 報告及び議題

○報告

（１）令和４年度及び令和５年度上半期の運営状況について

○議題

（１）令和６年度の事業計画（案）について

5 公開又は非公開の別

公開

6 出席者

〔委員〕池田 洋子、浅井 啓介、西川 菊次郎、富嶋 明人

〔事務局〕小牧山課長 武市 礼子、課長補佐兼史跡係長 長谷川 潤治、

史跡係専門員 浅野 友昭、史跡係主事補 鈴木 悠介

こまき市民文化財団 チーフマネージャー 坂本 享司、

主任 鈴置 路子

7 会議の結果

(午前10時00分開会)

【事務局（長谷川）】

定刻になりましたので、ただ今から令和5年度小牧山歴史館等運営委員会を開催いたします。

本日はご多忙のところ、ご出席いただきありがとうございます。

さて、機構改革によって、今年度からこの委員会の事務局は文化財課から小牧山課史跡係へ変更となっております。ご承知おきいただきますようお願いいたします。

なお、本日は八木委員より、欠席をされるご連絡をいただいております。

本委員会につきましては、「小牧山歴史館等の設置及び管理に関する条例」第16条に規定してありますとおり、歴史館等（小牧山歴史館と小牧山城史跡情報館の2施設）の運営を円滑に行うため、設置するものであります。

委員の任期につきましては、委員名簿に記載のとおり、令和7年4月24日までとなっております。

なお、この会議は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき公開するものとしていますが、本日は、傍聴者はありません。なお、議事録につきましては、発言内容、お名前とも、小牧市のホームページにて公開しますので、ご承知おきいただきますようよろしくお願いいたします。

それでは次に、会議資料の確認をいたします。

初めに次第を1枚、名簿が1枚、報告の資料としまして、資料1-1と1-2をあわせて9ページ、議題の資料としまして、A3版の資料2が1枚ございます。不足などございましたらお申し出ください。

加えて、机上に小牧の教育令和5年度版を置かせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして事務局職員の異動もございましたので紹介をさせていただきます。

小牧山課史跡係の鈴木です。

【事務局（鈴木）】

小牧山課史跡係主事補の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局（長谷川）】

また小牧山歴史館及び小牧山城史跡情報館の指定管理受託者でございます、一般財団法人こまき市民文化財団の坂本です。

【こまき市民文化財団（坂本）】

市民文化財団の坂本です。よろしくお願いいたします。

【事務局（長谷川）】

こまき市民文化財団の鈴置です。

【こまき市民文化財団（鈴置）】

鈴置と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局（長谷川）】

私は小牧山課長補佐兼史跡係長の長谷川です。よろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず始めに、開会にあたりまして小牧山課長よりごあいさつを申し上げます。

【事務局（武市）】

改めまして、おはようございます。本日はご多忙のところ、小牧山歴史館等運営委員会にご出席いただきありがとうございます。

さて、本年4月1日には、長く市民の皆様に親しまれてきた「小牧市歴史館」が、戦国時代の小牧山に関する展示へと全館改装を経て、「小牧山歴史館」としてリニューアルオープンいたしました。また、現在放送中のNHK大河ドラマ『どうする家康』をはじめ、様々なメディアで小牧山が取り上げられたこともあいまって、麓の小牧山城史跡情報館れきしるこまきと併せて、市内外を問わず多くの方に足を運んでいただいているところであります。

こうした状況もふまえて、本日は『小牧山歴史館』と『小牧山城史跡情報館れきしるこまき』について、令和4年度及び令和5年度の上半期の運営状況についてご報告をさせていただきます。令和6年度の事業計画案について、議題としてご審議いただく予定としております。

皆様からの忌憚のないご意見を頂戴したいと思いますので、よろしくお願いいたします。簡単ではございますが、あいさつに代えさせていただきます。

【事務局（長谷川）】

それでは、次第の2「委員長あいさつ」をお願いしたいと思います。池田委員長よろしくお願いいたします。

【池田委員長】

みなさんおはようございます。今日も短い時間を予定していますが、みなさんの活発なご意見をよろしくお願いいたします。

【事務局（長谷川）】

ありがとうございました。それでは、早速議事に入ります。

ここからの進行は池田委員長をお願いしたいと思います。

【池田委員長】

はい、わかりました。本日は3の報告と4の議題がありますが、3の「令和4年度及び令和5年度上半期の運営状況について」事務局から説明をお願いいたします。

【こまき市民文化財団（鈴置）】

では、令和4年度及び令和5年度上半期の運営状況について、小牧山歴史館の運営状況からご報告させていただきます。

まず、令和4年度の事業実施状況についてです。お手元の資料1と2をご覧ください。

上から順に、甲冑試着体験、ジュニア企画展の「小牧山を舞う野鳥たち」、企画展の「小牧・長久手の戦いの20人」、小牧山城茶会、忍者衣装試着体験を実施いたしました。

特に、企画展では、大河ドラマで「徳川家康」を取り上げることにちなんで、れきしるこまきの企画展と共通のテーマの「小牧・長久手の戦い」を取り上げ、「小牧・長久手の戦い」に登場する武将20人に焦点を当てた内容の企画展を行いました。あらためて小牧の歴史に興味をもっていただくとともに、身近にある歴史や文化に対する関心を高めてもらう機会となりました。

令和5年度は引き続き、甲冑試着体験、小牧山城茶会、忍者衣装試着体験を実施しております。秋の小牧山城茶会と甲冑試着体験につきましては、只今石垣の復元工事が始まっている関係で、下半期は会場をれきしるこまきに移して実施する予定になっています。

続いて、入場者数についてご報告いたします。お手元の資料3をご覧ください。

令和4年度の来場者数は、39,071人で、前年度より4,433人減少しました。これは、館内の展示改修工事のため12月1日から3月31日までの4ヶ月間休館したことによりです。休館前の11月までの合計では、約12,200人の増加となっております。

続いて令和5年度上半期の来場者数についてですが、4月1日のリニューアルオープンより、来場者カウンターによるカウントを開始いたしました。その関係で、これまでのカウント数との差異が大きく出ておりますが、明らかに来場者が増えていることが分かります。特に、大河ドラマ「どうする家康」で「小牧・長久手の戦い」が取り上げられた8月前後の月の来場者数は前年と比べて大きく増えており、大河ドラマが大きく影響しています。例年春や秋に比べて夏の時期の来場者は少ないこともあって、その影響は大きいものと実感できます。

続きまして、小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）の運営状況についてご報告させていただきます。資料1と2をご覧ください。

まず、令和4年度の事業実施状況についてですが、企画展では、前年度の発掘調査の成果発表として、6月から8月にかけて「令和によみがえれ！信長の城！小牧山城石垣復元パネル展」を、10月から11月にかけては、歴史館と連携して「家康・秀吉覇を争う！小牧・長久手の戦い」を実施しました。秋の企画展では、「小牧・長久手の戦い」の概要について主に扱ったのですが、中でも秀吉軍と家康・信雄軍とが長久手でぶつかり合うまでの進軍ルートを上空写真を用いた巨大パネルにして、戦いを多様な方向から見るとの工夫を行いました。

講座でも「徳川家康」に特化して、全5回の講座を行いました。家康の半生をすくなくにして、遊びながら学べる体験講座、「小牧・長久手の戦い」ゆかりの地の学芸員によるトークセッション、家康にまつわる軍記を語る講談など、多様な企画内容から「徳川家康」を知る講座を展開しました。

ワークショップは7回開催し、前年度好評だった企画を引き続き開催しました。発掘

品に触れ復元作業の疑似体験、小牧山内の遺構をめぐるフィールドワーク、小牧山城本丸石垣のジオラマづくり、小牧山で集めた木の実でつくる足軽人形など、子どもから大人まで楽しく小牧の歴史を学び、自然に触れる機会を提供できました。

また、令和3年度から新しい取り組みとして「夏休み自由研究レキシルお助け隊」を令和4年度も引き続き実施しました。職員とガイドボランティアが協働して子どもたちの自由研究につなげるサポートをするもので、小牧山の歴史や自然に関する素材を一緒に探し、自由研究を手助けすることで、子どもたちの小牧山への興味、関心を高めることにつなげました。

令和5年度上半期は、小牧公園150周年、大河ドラマ「どうする家康」という2大イベントを取り上げ、「小牧山」をより知っていただくための企画展、講座、ワークショップを実施しました。特に企画展「家康公の天下をとるは小牧にあり 小牧・長久手の合戦」では、大河ドラマで「小牧・長久手の戦い」の放映時期と重なっていたため、放映前に予習に来られた方、放映後に確認しに来られた方など、多くの方にご覧いただきました。

また、新しい取り組みとして、小牧山内の遺構8ヶ所をめぐるスタンプラリーを企画し、子どもから大人まで多くの方に参加していただきました。引き続き、下半期も実施して参ります。

続きまして、入場者数についてご報告します。資料の3をご覧ください。

まず令和4年度ですが、来場者数の合計が37,049人で、前年度より2,475人増加しました。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための施設利用停止期間が無く、中止する事業も無かったことが要因と考えられます。

令和5年度については、こちらも歴史館同様、4月より来場者カウンターを設置したため、前年度と比べて数値に大きな差異が生じておりますが、大河ドラマの影響による来場者の増加が見て取れます。例年来場者が少ない夏の時期に非常に来場者が多かったことから、歴史館と共通して大河ドラマの影響が大きかったとわかります。これから過ごしやすい気候で、紅葉を楽しむ時期になりますので、引き続き、多くの方のご来場を見込んでおります。

以上で、歴史館、れきしるこまきの運営状況の報告を終わります。

【池田委員長】

ありがとうございました。皆様方から何かご意見ございますでしょうか。

【富嶋委員】

うまく大河を利活用して、数字の成果がでているのは大変よろしかったかなと思いますし、歴史館でいうと、学校教育の観点で見ればということですが、要するに「小牧はすごいところだ」と、小牧に子どもたちが誇りを持ってもらおうということで、歴史館ぜひリニューアルしてくださいという話はしてきましたけれども、実際そういう形になっているということ、

特に秀逸だったと思ったのは、2階のところに小牧の戦いということでコーナーを設けて、ちょっと細かい内容もあるんだけど、ここに砦があったことがこういう意味があるんだよとか、この砦に関わって実際にこういう人が動いているんだよということ

が詳しく紹介されていて、かつ、それがうまいこと開戦までのVTRと、長久手の合戦のVTRとつながってるので、工夫されているなと思いましたし、

最上階に行くと、航空図があって、そこに砦がここだよと示してあって、子どもが来たらと学校を探しますので、自分の学校と「あ、こんな近くにあるんだ」というようにすごく身近に感じますし、さらに展望もできるので、うまく作っていただいたなと思っています。

それから、れきしるとも連動していて、特に先ほどもお話がありましたけれども「家康の天下をとるは小牧にあり」のところなんかは、砦にスポットを当てて、深く掘り下げている。自分の身近にある砦にスポットを当てているので、大変内容的に良かったんじゃないかと思いますし、学校教育にも大いに利用できるここは利用できましたというところです。

ただ、大河の影響はすごく大きいよね、大河後はということで、このあとのこと、大河後どうしていくかってことは検討予知が十分あると思うんですけども。

このたびは大変私も勉強させていただきました。学校教育に利用させていただきましたありがたい話です。

【池田委員長】

ありがとうございます。

確認してもよろしいでしょうか。来場者数のところで、カッコ付けで「常設展示室」とありますが、常設展示室は無料で入れるんですか。

【事務局（鈴置）】

常設展示室が有料となります。

【池田委員長】

特別展示ではなく常設展示が有料ということですね。

こちらは100円ですか。200円になったんですか。

【事務局（浅野）】

200円です。

よろしいでしょうか。歴史館で言いますと、歴史館の1階が無料のスペースで、2階以上が常設展示ということで有料のエリアになっております。れきしるこまきですと、常設展示のエリアだけが有料で、それ以外の企画展示室ですとかレクチャールームは無料ということでやっています。両館合わせて、4月から大人200円、高校生以下は無料ということで条例改正をさせていただいております。

【池田委員長】

もう一点いいですか。昨年までは夏休みの自由研究お助けがあったんですが今年はないみたいなんですがそれはなぜですか。

【事務局（鈴置）】

昨年度実施したところ、非常に参加者数が少なく、元教員の職員に話を聞きましたところ、自由研究自体を宿題にしている学校が少ないとお聞きしましたので、今年度は実施せずにやってみようかということで実施しておりませんでした。

【池田委員長】

富嶋先生すみません、自由研究をここでお助け隊があるということは学校にはアナウンスってのはありましたか。

【富嶋委員】

アナウンスはありましたかね？何かしら。

ただ話があったように、コロナ禍で一度夏休みの宿題がすごく見直されて、作品募集その他も全部ちょっと見合わせるという格好で、自由研究とか読書感想文も出していない、コロナ禍が明けて復活はしてきたんだけど、コロナ禍の知見で見直しがされて、読書感想文は自由参加にしようとか、自由研究は自由参加にしようという形の学校が非常に増えています。なので、需要が減ったというのはお話としては分かる話だなと思います。

【池田委員長】

こういうことって学校との連携が必要なので、一旦止めちゃうと生徒さんたちは、「もうやらないんだ」ということになってしまうので、もうやめたらもうやめということでもいいんですよ。どちらかというと。もう1回復活というもののすごくエネルギーがかかるので。多分今年だけ止めてみましょうではなくて、多分もうこれで夏休みの自由研究お助けみたいなことはちょっと難しいかなという気はしますので、来年度もしももう一遍復活とか、やらないということであればそれはそれでいいんですけど。

でも、もっと別の意味で、今、21世紀の教育で、教育現場に求められていることは、あなたは何がしたいですか、あなたはどんな命題をつくることができますか、とか、そういうようなことが教育現場にもものすごく投げかけられて、現場はすごく大変だと思うんですけど、そういう、本当に、夏休みだから学校に出すレポートを助けるんじゃないくて、夏休みにあなたは歴史について、小牧の、自分の住んでいるところの文化についてここで研究してみませんかとか、知ってみませんかとか、そういう形で子どもたちを入れこむということは、来場者数が減るところでは意味があるかなと思うので、今年はちょっとやめましたけれども、来年度からは、こういう形でやるんだ、やるのだったらそういう形、やめるんだったらやめるということでやっていただければと、

ただ、学校としては、学校の先生では小牧について細かいことまではなかなか教えられないけど、例えば子どもさんが頼ってきたときに、れきしるへ行ったらわかりますよというようなアナウンスや、もう少し連携がとっていけたら新しいことができると思いますし、子どもたちにはものすごい財産になるので、復活するならお助け隊といったら変ですけども、ちょっと違う視点で、子どもたちの提供という場面が必要かなと思いますので。

来場者数が少ないときは子どもには親が必ず付いてきますので、ただ、そうすればち

よっと展示を見ていこうかというようなことにもなると思いますので。一旦やめると難しいということで、少しご検討願いたいと思います。

とにかく、教育方針が21世紀の教育と20世紀の教育と全然変わってきたので、ただ学校のためにれきしるが援助するという考え方ではなく、子どもたちに自分たちが何を提供できるかという視点で出していただけるとありがたいなと思います。

あとは他になにかありますか。

【西川委員】

一つ確認したいです。小牧山城茶会で参加する人とか年代だとか、どういう方が参加しているかというおおよその状況を教えてもらえますか。

【事務局（鈴置）】

比較的年配の方が多いですね。

【西川委員】

というのは、茶道とやると、連盟の方は参加しやすいと思うんだけど、山頂まで上がっていくのに大変だから、高齢の方が主になると思うんだけど、そうすると、電気自動車の運搬だとか、そういうことも並行してやる必要があるんじゃないかと思うんだけど、ただ、茶道連盟の方は、4月に連盟の茶会があるから、創垂館のところでやるから、それとは別に、これは小牧山城の茶会体験だと、一般対象を主としているのであれば、元気な方が行くということで構わないんだけど、そのあたり、高齢者がより参加したいという現状があるならば、車での送迎等を行う必要もあるんじゃないかと思うんだけど、それは茶道に嗜みたいという方の年齢層をどのあたりにターゲットをあてるのか、例えば子どもがやりたいということであればそれはもちろん良いことなんでしょうけど、まあその子たちは自力で元気に上がっていくからいいと思うんだけど、高齢者のことを考えると、その辺の対策考えるといいかなと思いました。

【池田委員長】

今お子様という話があったんですけど、今名古屋市内でもお寺で子どもさん対象だけのお茶会というのをたくさんやっています。で、こういう風に子どもさんが今度この学年、小学生とか幼稚園とか、幼稚園なんかでもお茶を教えたりするんですよね、で、そこに人を集めて、その幼稚園にポスターを貼って、ここでやりますよ、実際の体験もできますよという感じでやっていますので、例えば、この茶会を子どもさん向けに一つ出すとか、そうしていわゆる茶会、お茶ってのは高齢の方ばかりではなくて、ほんとに小さなお子さんが「抹茶ってこうやって飲むんだ」、「これがお抹茶なんだ」ということを小さいときに体験できるような、そういういわゆる文化として作っていただけたら面白いかなと思うので、どこかの幼稚園に声かけて、今度ここでやりますので幼稚園でどうですかという、ひょっとしたら団体でどっと来て下さるかもしれないので、そうすると茶道文化の裾野も広がりますので、一つ広げる方向で、今あるものじゃなくて、自分たちで新しく何かを広げていくという方向性みたいなをつくっていただけたらとありがたいと思いますので、まあ茶道なんかは割にいま聞いていると本当にあちこちでそう

いうお話を聞きますので、子どもさんを行かせるという、だからわざわざ親は運転して名古屋の果てから稲沢の国府宮まで行ったりとか、結構皆さんそうやってやっていますので、だから小牧山で、小牧山の紅葉を鑑賞しながらやりましょうとか、そういうことがあると面白いと思うんですね。ちょっと新しい企画かもしれませんけど、少し幅を広げるという考えがあったらいいんじゃないかなと思います。

すいません。では、この3の報告事項についてはもうないでしょうか。なければ終わらせていただきます。

では次第の4、議題（1）「令和6年度の事業計画（案）」に入りたいと思います。事務局、説明をお願いします。

【こまき市民文化財団（鈴置）】

令和6年度の事業計画（案）について説明させていただきます。A3サイズの資料をご覧ください。

大河ドラマも終わり、来場者の増加傾向は落ち着くと考えております。「小牧・長久手の戦い」で注目されたことは大変喜ばしいことですが、小牧山の遺構はそれだけではないことを、もう一度改めて小牧山について見つめ直す機会を提供できたらと考えております。

特に、れきしるこまき企画展では「史跡小牧山主郭地区発掘調査20年の歩み」を企画しており、発掘調査20年間の歩みを振り返る機会としています。

また、歴史館の企画展では、「小牧山から歩いて行ける文化財めぐり」と題し、小牧山周辺の文化財を取り扱うことで文化財を身近に感じてもらう取り組みをいたします。

また、例年実施している、小牧山の発掘品に触れるワークショップ、小牧山内を散策するフィールドワーク、小牧山にまつわる講座、小牧山スタンプラリーなど子どもから大人まで楽しめる企画を、引き続き計画しております。

現状、歴史館も小牧山城史跡情報館もご来場いただく方は市内の方よりも市外、県外からお越しになる方が多い状況にあります。まずは「小牧山」のことを知っていただくこと、市内の方には「小牧山」のことを再認識してその魅力に触れていただくこと、これらのことを重点に置き、企画展、講座、ワークショップを展開して参ります。

以上で、令和6年度の事業計画（案）についての説明を終わります。

【池田委員長】

ありがとうございます。では説明が終わりましたので、質疑に入りますので、少しご意見等ございましたらよろしくお願いします。

【西川委員】

いいですか。このあいだ知り合いの人と話してて、例えば、大手道上がったところに源明公のお墓があると、ところが愛知県の、今ね、建中寺がぐっと縮小されたので、現存するお墓は愛知県に4基しか残ってない。そのうちの 하나가小牧山に来ているという点で、私いつもいろんなお話するときに、小牧市は尾張徳川家とすごい結びつきが、ゆかりがあって、いろんなものが来ているんだよという中にそのお墓のこともついでお話しするんだけど、多分市民でさえもお墓がここにあるということは知らないと思うん

だよ。だから、そういうようなこと、今小牧山から歩いて行けるというような一つの例で、ちょっとした文化財めぐりをということで、尾張徳川家の関わりのもものだけでも、例えばお猿塚というのがあるよね、あれは寺浦のところにあるんだけど。これも義直が小牧で育ててくれと頼んだのが亡くなったので、それを弔うためにあそこにつくった。場所はちょっと若干違うんだけど、つくって今残っているという、そういうようないろんなことを、知らないことを、こういうのもあるんだということをちょっと教えてあげるといいかなと思う。信長の関係のお城というのがすごくクローズアップされたけれども、おおもとは徳川様から頂いた小牧山というニュアンスが市民にはいきわたっているから、その結びつきを、例えば義親さんの銅像が前は小牧山城の前にあったですよ。今は中に入っているけれども、あの辺の説明も、より尾張徳川家との結びつきの中で、例えば八雲開拓の件、交流の件も、小牧がたまたま、やってみてはどうですかとちょうど 60 周年の時に言われて、あ、それではということで交流が続いてて、まあいろんなことがあると思うけど、そういうことも含めて、古い歴史のことばかりではなくていろんな意味で尾張徳川家との結びつきがあって、その延長上でいろんなことがおこなわれているということも含めて歴史的なこととしてね、皆さんに知ってもらおうというのを、その中心を歴史館やれきしるの中で広めてったらどうかなというのを思うんですよね。

【池田委員長】

ありがとうございます。徳川家との関係ってなかなか細かいことまでわからないし、そういうことを先生ぜひ何かに書いてください。書いて渡してあげないと無理です。ほとんど覚わらないと思うし、是非一度そういうのをレクチャーとかしていただけると。

【西川委員】

まあ主だったことは渡します、はい。

【池田委員長】

そうそうそう。それでいろんなバージョンができる。信長との関係とか、次に秀吉と家康との関係、それから家康以降の徳川家との関係。つまり名古屋というところができちゃって、いわゆるこの尾張というところから、尾張平野の中心が名古屋に変わってきちゃった。で、その時に残された、前のものを取り上げられた小牧っていうのがどういう風になっていたのかっていうのをよろしくお願いします。そういうところがあればいいと思います。

【浅井委員】

ひとつだけいいですか。事業計画案ということで、少し議題とずれるかもしれませんが、小牧山ってところは非常に規制が多いところだと思うんですよ、で今も規制が多い状態なんですよ、でそれを確認したいと思っております。

【事務局（浅野）】

まずはですね、国指定の史跡ということがございまして、基本的には遺構の価値を損

なうような行為ということが禁止されておりますので、草木を採る、切るということから土を掘るですとか、そういった行為はもちろん禁止されております。あとは、小牧山の東側が史跡公園ということで整備されておりますが、実際は都市公園ではないんですけれども、公園の利用として、例えば場所を占有するですとか、そこでドローンを飛ばすだとか、そういった行為については禁止されております。

【浅井委員】

やっぱり厳しいところがありますね。ありがとうございます。以上でした。

【池田委員長】

ありがとうございます。あと特になideしょうか。

【富嶋委員】

さっきの西川先生のお話と連結させて言うと、僕今年八雲町交流で連れて行っているんです、で向こうに行けば、本当に義親さんの銅像もあるし、義親さんが紹介した木彫りの熊の像もあるし、子どもたちは「へえー」ということになるわけです。で報告書なんか書いたりもする、ということですごくつながりがあり、尾張徳川家、特に近代以降の徳川家との関連で今の交流もあるんだということで子どもたちは納得して、なるほどと思って、で歴史のつながりを深めようと思って、子どもたちはピュアですから、帰ってくるんですけれども。結局それも報告となると報告書一つ上げるくらいのことで、その子たちの中では感激の出来事としてあるんだけれども、じゃあその子たちのものがどう展開していくかとなるとなかなか展開されないままだろうと。でも子どもたちが発表会を開いてどうこうというわけにはいかないの、その子たちが大人になって、その子たちの子どもたちがまた来るようになって、ということでつながり自体は広がっていいんですけど、じゃあそういうようなことをどこかで紹介される、どこかで見ることができるというのを、尾張徳川家との話も含めてつなげて、できればそちらの方ともつながっていいのかなということを、いま西川先生の話から思いました。

【西川委員】

れきしるの企画展で、全国に、版籍奉還、廃藩置県の明治になってから、武士は禄を失うわけだよね、で、その藩の藩士たちを今後どうしようかという中でいろんなことをして、例えば静岡のお茶もやっぱり武士が広めたわけで、で、例えばちっちゃなことだけど、名古屋コーチンのことも武士からスタートして小牧で頑張ってたという、そういうようなやつを、特集をれきしるで、明治以降の各藩の武士はどういったようなことで身を立てていったか、そういうようなことで小牧を絡めてやってはどうかなと。これは単なる一案で、思い付きで申し訳ないけれども、小牧を例にとり尾張を例にいろんなことを広めて覚えていくという、学校教育の細かな中ではそんなに話題にならないことでも、特集をれきしるのなかで組めば、いろんなことを学べる場になると思うんだけどね。そうすれば今言った木彫りの熊も、義親さんが欧州へ行ってヒントを得て、冬の仕事ができない藩士たちの内職として広めたということから北海道全体へ広まったという、そんなこともいろんなお話にもなりながら。といっても今あんまり北海道のお土産

で木彫りの熊という印象ないよね。僕らの頃はいったらみんな買ってきたんだけど。まあそんなことは一エピソードでお話してもらえばいいんだけど。すいません。

【浅井委員】

いいですか。さっき網掛けの話を言ったんだけど、例えば今木彫りの熊、あれを全国から集めて小牧山へ点在させたら面白いんじゃないかと。今日本全体ね、チャレンジが足りないというんですか、投資が足りないの、何かとびぬけたことをやると面白いんじゃないかと。それをきっかけに、「小牧関係あるんだ、木彫りの熊と」とかね。

で、さっき先生もおっしゃった、本当に、僕はここで生まれ育って今も生きてますけども、ここに対して愛情があるんですよ。でも、小牧何にもないっていうのが植え付けられているんですよ。小牧文化不毛の地っていうのが入ってるんですよ。でもこれ見たら、その他にも入っちゃうけど、ものすごいじゃないですか。これを、僕各学校でやってほしいのと、よくわからなくても誇りに思いますもん。だからそのアイデンティティとかそういった日本の文化とか、絶対世界で武器になるので、こういう背景があったときから、チャレンジですよ、信長のチャレンジもあったし家康も耐えた部分もあるし、こんなすごいところないじゃないですかというのを知っていてほしい、何かで知っていてほしい。それがどうなるかは知らない。あとは個々の問題なんで。でも、うちはこのところがあるんだよ、っていうのを言いたいなあと思う。

小学校から校歌を歌いますけど、必ず小牧山が入っています。高速道路で輪島から修行で、漆の修行で帰ってきたとき、小牧山を見ると涙が出るんですよ。こんないいところないと。ただそれが言えない。だからみんな、これすごいなあって、あとまた先生の資料も欲しいと思うし、すごいな夢がいっぱいあるなここって。以上です。そんな風でした。

【池田委員長】

ありがとうございます。もっとチャレンジして、れきしとか小牧山が。大河が終わったからじゃなくて、ここから何が発信できるのか。小牧って本当に、名古屋ができる前は大事なところなので、そういうことをもう少し子どもさんたちに伝えられる、自分たちに誇りを持つ、つまり郷土に誇りを持てるような、そういう位置づけをもとにしてこの歴史館とかれきしをつくると、方向性というか、ただ小牧山を見せるというのではなくて、本当に市民たち、新しい子どもさんたちに、自分たちの郷土がこんなにすごいところだったんだよというのを植え付けるというか、そういうのを教えてあげるような、そういうような方向性をもった歴史館になってもらえると、もうちょっと違う方向性というか、見せ方とかも変わってくると思いますので、ぜひ、いらっしゃる知恵をとにかく吸収して、いなくなっちゃいますからね、皆さんすぐいなくなっちゃいますから。

例えば、全然話変わるんですけど、平安時代末の、和歌の有名な、嶋たつ沢の秋の夕暮れの歌をつくった人、をつくった人の、西行ですね、西行分かりますよね。

【西川委員】

西行関係はね、たくさんありますけどみんな伝説なんで。

【池田委員長】

いいんですよ伝説で、どうせ伝説なんだから。だからそういうのもあります。西行の頃からあるので、つまりどういうことかっていうと、江戸時代になるまでは、とにかく庄内川の北側っていうのがメインだった、つまり尾張氏ってのがこの辺にいるから、こっちが中心なの。そして、必ず当時は水運、水でないと物が運べないので、清須もそうだし津島もそう、でもここって水運ってないでしょ。

【西川委員】

まあ、これも伝説だけど、五条川を使ってというのはあるんだけど。

【池田委員長】

でも五条川は清須だもんね。だから信長が水運じゃないところでここになぜつくったのかっていうのはあるんだけど、結局昔は全部水運ですべて来ていて、ただ西行は歩いてくるから、どこでも歩いてくるんですよ、でたくさんこの辺りにも伝説残っていますので、そのあたりから掘り返すと。もちろんここは戦国以降しかやらないから、基本的には。でもそういうのもありますよということで、ぜひこの辺り、名古屋より古い重要な地域ですので、そういうことを考えてやっていただけたらいいなと思います。

大河終わってもまだまだたくさんありますので。またよろしくお願いします。

特にあとご意見は。

【富嶋委員】

すいません。事業計画内容が充実していてとても良いと思います。ただ子どもって形でいくとなかなか足が運べないっていうのがあるので、学校の方では校外学習どんどん出向かせたいと思います。

もう一つ、出前講座をやっていただけるとありがたいなと思っているんです。それこそ小牧山はこんなにすごくて信長の天下統一の第一歩だったとか、秀吉は長久手でなんとかしたから家康を従えて天下統一したとか、家康は秀吉に勝ったから、負けなかったから、小牧山だったから負けなかった、だから次の天下人になれたみたいな、本当に小牧山すごいねっていうところを教科書に組み入れてやると、本当に子どもたちピュアに喜んでくれるんですよ、で小牧山のここに住んでた、誇りに思うくらいのことは言ってくれるようになるもんですから。ただその機会がそうあるわけではないと思いますので、れきしるあたりの方にどんどん出向いていただいて、授業の中に組み入れてお話していただくと随分子どもたちも気持ち高まると思いますし、何らかの機会に行ってみよう、行ってみたいという気持ちも高まると思って、内容の良い、濃いこれを見てさらに興味関心広げ、誇りに思う、という風につながっていくと思うので、これもいいんですけど、ぜひ出て行って紹介するという、学校教育の方にぜひ回していただけたらと思います。

ちょっとなかなかやりにくいということをちらっと聞いたものですから、ぜひお願いしたいと思います。

【西川委員】

一つちょっと教えてほしいんですけれども。ここに花押缶バッジという、缶バッジをつくるワークショップみたいなのをやると思うんだけど、もちろんこれは子ども対象だよ。どんな手順でどんな風のどんな程度の難しさか。私ってというのは、紙にいろんなことを描いて、もとは印刷したやつが、キャラクターみたいなやつがあって、それを丸く自分たちで切って、上に当て込んで、上からパシャッとプラスチックのやつを、機械でパチャッと止めるとうまく収まって、それはピンでやったりマグネットでやったりするんだけど、既製のやつだよもちろん、これはどういうの使ってる？

【池田委員長】

こういうのでしょ、缶バッジって。

【西川委員】

あ、これかわいいね、小さくて

【池田委員長】

これが缶バッジです。缶バッジすぐできます。

【西川委員】

そうだよ、同じようなやつ？

【こまき市民文化財団（坂本）】

同じようなやつです。

【西川委員】

ほんと、私が言っているのはこれの倍くらいあって、値段もそう高くなくて、100 個ほどセットで売っていて、値段は 4,5,000 円で済むんですわ。ただし缶をパシャッとやる機械そのものはもってないといかんから、それはそう安くはないんですけど、そういうのがもしあれば、毎回来た場合に親子でいろんなコーナーをれきしるの中につくるといとか、体験でやるというか、そういうのをなんというか。

【池田委員長】

缶バッジって結構簡単にできるんですよ。

【西川委員】

できるよね。

で、その缶バッジっていうのは個人で買った？

【池田委員長】

いやいや、どうなっているのかは知らないけど、学生さんが簡単に作ってほしいってくれるんだけど。

【西川委員】

だから、カチャっとする機械自体はもっているんですね。

【こまき市民文化財団（坂本）】

はい、ありますので、いろんな形で缶バッジは提供しています。

【池田委員長】

そういうことね、毎回だから行ったら、例えば記念で

【こまき市民文化財団（坂本）】

何回来たら1個あげますよ、というような企画もやってますし、はい。

【池田委員長】

来た人に、自分の缶バッジをつくって帰りましょうみたいな、

【こまき市民文化財団（坂本）】

あの、職員が作ったものを提供するというような形です。

【池田委員長】

だから、それほど難しくないから、自分たちでできちゃえば大したことはないんですけど、まあでもここの花押をつくるという、こっちがメインでしょこれ、缶バッジにするよりも。要するに、字を読めない、昔の字が読めないし、花押ってなにかわかんないじゃないですか。サインだよね、今の。そのサインをどうやってつくるか、みたいなのか。

【西川委員】

まあこれは花押の例だけでも、要するに、缶バッジをつくるのが、今日はこういうような缶バッジをつくってみようというようなことはいろんなジャンルでできると思うから、それをもとに何か、言葉を変えてもいいよね、自分で書いて、土台の絵はいくつかあって、参考になるような絵が、印刷してあるようなやつがあれば、例えばそれを切って、ちょっと書き込んでつくるとか、その工夫はいろいろあると思うから、やってみてはどうかなというか、もちろん小牧山城そのものの絵が書いてあって、プリントしてあるような絵でもいいんだけど、そうと限らず、今回はこれでいこうとか、今度からこれでいこうというようなやつをいくつかつくと、なんていうか、シーズンによってとか、年度によってこういうものを、というのはできないかなと思います。

【こまき市民文化財団（坂本）】

はい、今後検討していきます。ありがとうございます。

【池田委員長】

ここも見た限り、これ以上何も言うことはないなので、よろしくお願いします。

そうしましたら4番の議題1については以上でよろしいでしょうか。こちらで終わらせていただきます。

続きまして、次第5のその他ですが、事務局から何かあればよろしくお願いします。

【事務局（浅野）】

こちら先生からですので、先生から、よろしくお願いいたします。

【富嶋委員】

あの、じゃあすいません。もうすべて話が出ているので、十分話はいたしました、あの、まあこの回に関連があるということで、もう一個、小牧山の整備計画審議委員の方でも話がでて、その中で小牧山の活用、学校教育でも活用していこうということがあったので、立場上授業の中で、っていう形でやってみた施策です。昨年度の実践という形になります。まああの、つらつら言っているように、とにかく小牧山すごいんだというようなことを子どもたちに意識させたいという。で、あの、出前的に一時間やって小牧山と長久手の合戦をセットにして語るという方法もあるんですけども、一番いいのは多分教科書と連動することです、子どもたちは教科書一番ですから、基本的には勉強イコール教科書、だから教科書の中で信長のところに小牧山をはさみ、で戦国の最後のところで小牧長久手の合戦を挟んでやると子どもたちはだいぶ意識高まるんじゃないかと思って、実際にやってみたというようなことで、まあ子どもたちについても成果があるので、まあ今後関わる場所ではやっていきたいなと、まあ今やっているんですけど、と思ってはおりますけれども、例えばこんなような授業、出前授業的にこのような授業をやっていけば今後子どもたちにつながっていく、小牧山に目を向けたり、小牧を誇りに思う子どもたちを育てられるんじゃないかと思う一例ということですので、ちょっとご紹介させていただきますので、またお暇なときにお読みいただいて、またご指導いただければと思いますので、よろしくお願いします。ありがとうございます。

【池田委員長】

素晴らしい資料をありがとうございます。これは隣のプロモーション課にもっていった、小牧の観光に使わないといけない。いや、小牧山小牧山っていうけど、小牧山っていったい何があるかって全然わかってなくて、信長と小牧山しかつながっていないんですよ。じゃあ信長忌って、信長が亡くなった6月2日、あの日に何かやるかって言ったら何にもやっていないし、そういうことも考えたら、もうちょっといろんなものをつくつけてもいいかなと思うので、これは素晴らしい資料で、ありがとうございます。

で、何かご意見ないですか。ただほんと私は感謝だけ、素晴らしいです。

では、すべての議題が終了しましたので、進行を事務局にお返ししますのでお願いいたします。

【事務局（長谷川）】

ありがとうございました。

これをもちまして令和5年度小牧山歴史館等運営委員会を閉会いたします。ありがとうございました。